

広島東洋カーブが25年ぶりにリーグ優勝したのを機に、応援歌「燃える赤ヘル僕らのカーブ」が39年ぶりにレコーディングされている。広島市立広島特別支援学校（南区）の生徒がバックコーラスで参加。14日、中区のJMSアステールプラザで収録した。

いつでも若く たくましく 燃える赤ヘル 僕らのカーブー

高等部2、3年の女子生徒8人が、収録室でサビの部分元気よく何度も合唱した。息が合ったところでOKが出た。2年西宮侑真さん（17）は「カーブが大好き。自分が応援歌に関われるのがうれしい」と喜んだ。

曲は1978年に発売され、南区出身の歌手加納ひろし（当時は本名の串崎正司）さん（60）のデビュー曲。現在もマツダスタジアム（南区）での試合で流れ、ファンに親しまれている。この日の収録には加納さんも駆け付けた。

カーブ女子など全国的に人気が高まる中、現在の芸名でデビュー曲を歌う企画が持ち上がり、優勝も後押しとなって10月にレコーディングが決定。PRグッズの製作を障害者の作業所に依頼したことがある加納さんは「地元の障害者と感動を分かち合いたい」と知人を通じて同校に協力を依頼した。

同曲や応援歌「宮島さん」を収録したCDは来年2月に発売予定。「完成したら、まず支援学校を訪問してお披露目したい」と加納さん。「思い出深いデビュー曲。カーブのおかげで初心に帰ることができた」と話していた。



加納さん（左から3人目）に見守られながら合唱する生徒（撮影・福井宏史）